

Forest 通信 H30 11

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.357



高尾山の生きものたち

カケス (カラス科)

奇妙な鳥で、驚いた。初めて見た時のこと。30 cm位と大きく、眼が鋭く、翼の脇が青く、頭が白に黒点のあるゴマ塩模様。こんな変わった鳥が、日本にいるとは知らなかった。

カケスは、森に棲む鳥で、警戒心が強く、姿を見ることは少ない。近くにいても「ジャア」という声を残し、飛び去って行くことが多い。高尾の山道で出会ったときもそうだ。主として昆虫類を食べるが、ドングリも食べる。ドングリを運び、地面の土や木のすき間に蓄え、後で食べる「貯食」という習性もある。これを食べないで、種が芽をだすこともあり、動けない木の移動を助けている。木はカケスに食べ物の実などを提供しているので、木とカケスの間には助け合いの関係がある。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



富 ちゃん 皿 ちゃんの

NO.38



ナラタケ (キシメジ科)

今年はキノコが大量に発生しているらしい。そのためかキノコ採取に伴う転落事故の件数が増えている。

キノコの森の中での役割は森の掃除屋とか分解者といわれているが、ほかに木と共生する外生菌根菌となって森を育てているなど重要な役割をしている。

キノコを見ると食べられるかどうかという目で見てしまう。歩道から見えるところにはえているキノコは、シロツルタケとかテングタケの仲間で白く大きなキノコが多い。たいがいは毒キノコである。キノコの中には、食用キノコとよく似ている毒キノコが沢山ある。たとえば、古くなったシイタケのホダキに出たツキヨダケを食べて下痢になったという話もある。一見すると食用にならないようなキノコでも食べられるものもある。たとえば、ササクレヒトヨダケのように一晩で黒く溶けてしまうキノコなどに手を出すこと

はないが、おいしいと食べる人もいる。それも酒と一緒に食べるとよくないと本に書いてある。

最初にキノコを食べた人は勇気がいったらうなという気持ちと、そんなに食べるものがなかったのかなという気持ちが入り交じる。

私は慎重派である。他人が大丈夫だといったキノコでも、その人がキノコを食べた翌日に元気な姿を見たあとでないと食べない。ただ、同じキノコを食べても、人によって大丈夫な人もいれば中毒を起こすこともあるそうだ。

そんな私がおいしくいただくキノコがナラタケである。ただし、決まった場所ですったものしか食べない。ほかの場所でもナラタケを見つかることがあるが、観察だけにしておくのが中毒にならない秘訣である。(富)



森林教室

八王子市立 七国小学校

10月2日（火）に八王子市立七国小学校5年生152名が森林教室を体験しました。

七国小学校は、当センターで受け入れている小学校の中で最も児童数の多い学校です。来年はまだ増えるということでした。

森林学習では、地球温暖化をふせぐためには、みんなで電気の無駄使いをしないことや、森林は緑のダム働きをすること、間伐をすることの大切さなどパワーポイントを使って分かりやすく説明しました。

丸太切りでは、最初は思い思いの厚さに切りましたが、職員が薄く切って太陽にすかして年輪の模様を見ることを教えると、子ども達も薄切りに挑戦です。切った後は皮をむき、ヒノキの香りをかいだり、切った輪切りは思い出の品として、また、家族へのプレゼントとして持ち帰りました。

森林観察では、植物や樹木の観察、落ちている木の実・木の枝を拾ったり、小さな沢で石をひっくり返して、サワガニを見つけて捕獲したり、貴重な経

験のできた約2時間の森林散策でした。

閉校式では、「丸太切りがおもしろかったけど疲れた」「森林の働きがわかった」「植物の名前を知ることが出来た」「森林を大切にしたい」などの意見があり、一日の疲れも見せずに元気いっぱいの笑顔を残し、宿泊場所のわくわくビレッジへと向かいました。（田）



熱心に森林観察



丸太切り初挑戦

森林教室

武蔵村山市立 第三小学校

さわやかな秋晴れの10月22日、武蔵村山市立第三小学校の3年生87名が元気いっぱいに森林ふれあい館にやってきました。

開校式の後、森林学習班と丸太切り班に分かれ森林教室開始です。

森林学習では森林の大切さをDVDでわかりやすく、座学では森林の働きについてパワーポイントで学びました。児童達は特に高尾山に住む動物に興味を持ったようで、質問がどんどん飛び出し、講師が圧倒されるほどでした。

人気の丸太切りでは、最初のこぎりに戸惑っていたようですが、いったんコツをつかむと何枚も切ることができ、みな気持ちよい達成感を味わっていました。薄く切った輪切りを太陽に透かすと赤く見えるので、こだわりの薄切りを追求する子もいました。また、輪切りの皮を上手にむくと白くきれいな面が出てくるので、座り込んで真剣に皮をむく職人があちこちに見られました。

お弁当の後は森林観察です。謎のキノコを見つたり、山の中でサワガニを発見したりで驚きの連続

でした。結構歩きましたが、とても楽しんでくれたようでした。

そして名残惜しい閉校式。ケガした子もなく、目をきらきらさせて来た時と同じく元気いっぱいに学校に帰っていきました。（松）



ちいさいサワガニ見つけたよ



輪切りした木の皮むきに夢中

森林教室 横浜市立 榎が丘小学校

秋晴れの10月30日(火)、横浜市立榎が丘小学校4年生106名が森林ふれあい館に来館、森林教室を行いました。

森林学習では、職員作成のパワーポイント資料による森林の働きについて説明を受けました。センサーカメラに写った動物たちの様子には関心深かったようです。

丸太切りでは、職員から鋸の使い方の説明後、全員汗をかきながらも一生懸命チャレンジしていました。2枚目を切る頃にはコツを覚え、上手に切れるようになりました。

森林観察では、森林の働きや木の成長について実際に森林を目で見て、葉っぱに触れてなど五感で森林を感じつつ職員の説明に聞き入っていました。特にツリフネソウの種のはじける様子や珊瑚のような形をしたミズキの花序が大人気でした。

閉会式では、児童の皆さんから「丸太切りが楽しかった」「高尾山にまた来たい」等の感想報告がありました。

今回の森林教室を機会に、さらに森林や林業に親しんで頂ければと思います。(高)



上手に切れるようになりました



森林内の歩道で学習

職場体験 八王子市立 恩方中学校

10月24日～26日の3日間、八王子市立恩方中学校の2年生3名が職場体験にやってきました。今年度4校目の職場体験です。今回は、森林ふれあい館や自然学習体験施設(炭焼小屋)の環境整備を中心に、国有林野事業や森林・林業についての学習、歩道の点検整備、間伐作業、センサーカメラのデータ回収等を体験してもらいました。環境整備では、森林教室で使った丸太の残材等の片付けを行いました。ここ数年手つかずの状態ではかなりの量があったため、体力には自信があると言っていた生徒達にとって、予想以上に疲れる仕事だったようですが、全てが片付ききれいになった様子を見てうれしかったようです。(実は、職員の方が喜んでいただけですが・・・)

今回は、重労働主体の職場体験となりましたが、生徒達からは、「色々な植物を観察したり、ロープの縛り方、ノコの使い方などを覚えることができ楽しかった」。「林業は大変な仕事だと思ったけど、森の中では新しい発見が多く、森林に興味を持った」等の感想を聞くことができ、無理させてし

まったかなとの心配をよそに彼らなりに有意義な3日間を過ごしてくれたようで一安心した今回の職場体験となりました。(谷)



ロープの縛り方も覚えめました



国有林の役割について学習

森林カレッジ3

平成30年度の森林カレッジ3「木の成長としくみ」を10月13日（土）に実施しました。

午前中は、元森林総合研究所多摩森林科学園 園長 三輪雄四郎先生の講義で、木がどのように成長していくのか、肥大成長や伸長成長について、そして木材の組織や細胞分裂、樹種によって比重が違う実演を含めて専門的で幅広く、分かりやすく説明していただきました。

午後からは、受講生が待ちに待った間伐作業の体験です。日常では経験できないノコギリを使って木を伐り倒す作業です。現場は、足場が悪く急傾斜地での作業となりましたが、受講生全員が伐倒、枝払い、玉切り、林道までの搬出を体験することができました。

講義と実習を通じて、「成長のメカニズムがわかった」「細胞や組織の構造など専門的なことがわかった」「受け口の斜めに伐るのが非常に力が入って難しかった」「山の仕事は簡単に見えてもキチンと段取りを踏まえて進めなければ大きな事故につながると思った」等の意見が出されました。

年4回行われるこの森林カレッジも来年1月で最終回となりますが、受講生も回を重ねるごとに知識と経験を積み重ねてたくましく成長してくれています。(田)



実演もあり、分かりやすい三輪先生の講義



受け口追い口等、伐採方法の説明



受け口の位置を決めます



倒した後は玉切り



間伐材は後日、丸太切り体験に利用

編集後記

森林教室の実施にあたっては、フォレストサポートスタッフの皆さんにボランティアとしてお手伝いいただいています。特に多人数の小学校の場合は、職員だけでは対応できず成り立ちません。毎回手弁当で早く参加いただくださる皆様方ありがとうございます。職員一同より感謝申し上げます。

Forest 通信 NO.357

発行_林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>